

埼玉親善大使レポート

慶應義塾大学1年 伊藤華

1.はじめに

私は「はばたけ！女性応援奨学金」短期コースに採択して頂き、2026年1月26日～2月25日の1ヶ月間、タンザニア連合共和国の食品会社でインターンシップを行いました。その後3月2日～3月6日の期間、ケニア共和国の児童養護施設・幼稚園～中学校を運営しているNGOでボランティア活動を行いました。

2. 現地での生活や活動

1)タンザニア

タンザニアでは、首都のドドマに約1ヶ月滞在しました。雨季でしたが、雨が降ることは稀で乾燥していて過ごしやすい気候でした。雨が降る時はスコールのように外出できないほど激しい雨がふり、町中に大きな水溜まりができていました。

高地に位置しているため、気温は高いですが乾燥していて、過ごしやすい気候でした。首都でありながら国際空港がなく、観光客の少ない地域のこともあり、治安は比較的安定していて一人でも街を歩いて観光することができました。

私はドライフルーツなどを製造している食品会社でインターンシップを行いました。日曜日には、ドドマにある市場でフルーツや小物の買い物をしたり、キテンゲ(アフリカ布)の洋服を作ってもらったりして過ごしました。社長以外のスタッフは全員タンザニア人で、英語を話せるスタッフも数名しかいなかったため、スワヒリ語での意思疎通や書類作りに苦勞しました。コミュニケーションをとることは難しかったですが、歓迎会としてご飯に連れて行ってもらったり、スタッフの方々と楽しい時間を過ごすことができました。



2) ケニア

首都のナイロビから約30km南東に位置するキテンゲラ市のNGOでボランティア活動を行いました。キテンゲラ市はナイロビに比べて治安が良く、街中のローカルフードも楽しむことができました。ドドマと同様に乾燥していて日差しが強い印象を受けました。

タンザニアではほとんどスワヒリ語しか話されていないのに対して、ケニアではタクシーのドライバーや先生、学校の子どもまでみんなが英語を話せることに驚きました。ケニアでは小学校の中学年頃から英語で授業を受けるようです。

私は主に、小学生の授業に入って授業を行ったり、折り紙などの日本文化を教えました。数日間の滞在でしたが、とても人懐っこい子どもたちで休み時間は一緒に走り回り、とても楽しい日々を過ごすことができました。



4. 埼玉県PR活動

タンザニアでのインターン中、毎日昼食の休憩が1時間あり、社食をスタッフの皆さんと食べていました。その時間に、株式会社 片岡食品さんの「ねぎみそ煎餅」などのお煎餅を配り、一緒に食べました。その際に、埼玉県の場所を示した日本地図を書き、埼玉県がどこにあるのか、どんな所なのかを紹介しました。

タンザニアでは辛いソース(pilipili)が必ず出てくるほど、辛い食べ物が人気なので、中でも南蛮七味味のお煎餅が人気でした。一部の外国人向けのスーパーマーケットを除き、タンザニアでは日本のお菓子や食品は手に入らないので初めて食べる食感や味を気に入ってくれました。

